

# 有害物質管理／廃棄物対応

<http://www.cosmo-oil.co.jp/sustainable/07/env/response.html>

有害物質の適正管理、産業廃棄物の削減と再資源化により、環境負荷の低減に努めます。

## ▶ 取り組みの考え方

製油所などでは、大気汚染防止法や水質汚濁防止法の規制対象となる排ガスや排水を排出します。また、PRTR制度などの対象となる化学物質も取り扱います。コスモ石油グループは、適切な管理に努め、環境負荷の低減を図っています。また、大型設備の導入や大規模工事の実施の際には、環境影響の評価を実施しています。産業廃棄物については、自主目標を設定し、発生量を抑制するとともに、余剰汚泥の削減および再資源化の推進を行っています。

## ▶ 産廃ゼロ化への挑戦

### 産業廃棄物削減

2006年度は、前年に対し、火災事故発生に起因する廃棄物の発生や、アスベスト除去によるアスベスト含有廃棄物発生などの増加要因がありました。また、最終処分量を削減するために、アスベスト含有廃棄物、焼却炉の燃えがらおよび廃アスファルト等の再資源化を進めました。こうした活動の結果、2006年度の最終処分量は402トン\*となり、連結中期環境計画で設定した目標〈ゼロエミッション:最終処分率1%未満〉をクリアする0.7%\*を達成しました。関係会社でも個別に目標を設定して産業廃棄物削減に取り組みました。

\* 産業廃棄物の最終処分量、最終処分率は、4製油所・四日市発電所(IPP)・油槽所・中央研究所を対象とします。

### 余剰汚泥削減

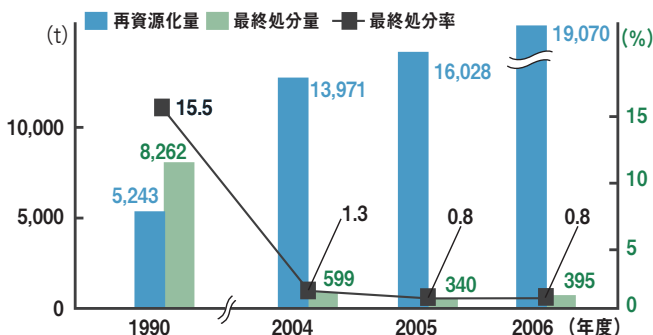
排水処理施設から排出される余剰汚泥は、日本において発生する産業廃棄物の中で最も多くの割合を占める廃棄物であり、コスモ石油の製油所において全産業廃棄物発生量の約56%を占めることから、その対策は非常に重要です。これまで、製油所で発生する余剰汚泥削減の技術について研究\*を行い、千葉製油所および坂出製油所で発生する余剰汚泥の大幅削減を達成しました。

\* (財)石油産業活性化センター(PEC)補助事業として実施。

## ▶ アスベストへの対応

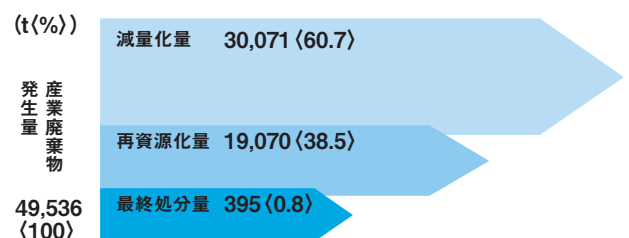
2005年度に、コスモ石油グループが所有または賃借しているSSや製油所などの建物を対象に、アスベストの使用状況を調査したところ、露出した吹き付けアスベストを16カ所確認しました。このうち15カ所については、2006年度中に除去工事を完了しました。残りの1カ所(閉鎖済みSS)については、2007年度中に除去工事を実施します。また、吹き付け以外のスレートなどの建材や製造設備にある保温材などの一部に、アスベストを含有しています。これらは成型品であり、通常の使用では、アスベスト粉じんの飛散はないと判断していますが、補修時に順次、非アスベスト製品に交換しています。そのほか、アスベスト含有製品の取り扱いについては、法律に基づいた対策を進めます。

### 4製油所産業廃棄物量の推移



\* 四日市製油所の再資源化量の算定方法を見直したため、2005年度実績を修正しました。

### 4製油所産業廃棄物のフロー



WEB 詳細データ <http://www.cosmo-oil.co.jp/sustainable/07/env/response.html>

WEB 詳細データ <http://www.cosmo-oil.co.jp/sustainable/07/env/response.html>